

【所信】

落語の小咄(こぼなし)に「手遅れ医者」というのがあります。どんな病で運ばれてくる患者でも「手遅れです、もう少し早く受診していれば助かったのに」と、残念がる医者
の姿を描写しています。しまいには、屋根から落ちてケガをして担ぎ込まれた患者に
「手遅れです」という始末です。「落ちてすぐに運んできました」と食い下がる家族に対
して、その医者は「ケガをする前に来ていれば、助かったのに」という落ちがつきます。

ひるがえって、われわれ歯科医師は、日常的に同じようなことを患者に話している
のではないかと思います。例えば「この歯は、もう寿命だから抜きましょう」とか「もう少し
早く来ていたら、神経をとらなくてもすんだのに」などと、つい言ってしまうことがありま
す。これは、早期発見、早期治療ということを説明しているつもりなのですが、患者に
すれば手遅れだと聞こえても仕方ありません。

それでは、どうすればよいのかというと、う蝕(むし歯)や歯周病になる前に歯科医
院を受診すればいいのです。歯が痛くなり、すぐに歯科医院を受診しても「手遅れで
す」ということになります。う蝕になって歯が痛くなると、治療には感染歯質の削除が必
要となります。さらには、歯の神経をとる処置(抜髄)が必要になることもあります。つま
り、元には戻らないということです。歯科医は削った歯を元に戻すことができないので、
次善の策として失った歯質を補填するために人工物を詰めたり被せたりします。歯科
治療で形態や機能は回復しますが、もとの天然歯と比較すれば人工物は所詮人工
物です。私がここで強調したいのは、人工物がいけないと言いたいのではなく、天然
歯を守ることを主眼に置いた歯科医療こそが、これからの歯科医が取り組むべき課題
であるということです。歯周病についても同様です。歯周病に罹患し歯槽骨が破壊さ
れると、失った骨を元通り再生することは、ほとんど不可能です。いま以上に歯周病が
進行しないように、プラークコントロールの行いやすい口腔内環境をつくるのが、歯
周治療の基本となります。一度失ったものを完全に元に戻すことはできないのです。

今日においては、幸いなことに幾多の先人による研究の成果から、う蝕と歯周病の原因は口腔内微生物による感染症であることが明らかにされています。そして、その予防法としてのブラッシングも特殊なものではありません。この意味において、歯科医師は「手遅れ医者」にならずにすむ道が開けていると思うのです。悪くなった歯を削って人工物を装着したり歯を抜くのではなく、う蝕や歯周病から歯を守るこそ私の使命だという信念を持ち、歯科診療所を開設いたします。

2009年1月1日

アイヴィ デンタル オフィス代表
医学博士 井上公秀